

2026年度第1・2回 地理学談話会

今年度、地理学科に着任された2名の先生方に、2週連続でご自身の研究などについてお話いただきます。どなたでも参加できますので、是非ご参加ください。参加登録不要／無料。

第1回

日時: **6月25日(木)** 16:30~18:00

場所: 駒沢キャンパス3号館2階211教場

報告者: 平野淳平 先生(地理学科 教授)

タイトル: 「歴史記録と観測データから探る気候変動」



気候・気象学では、一般に観測測器による気象データをもとに気候変動に関する研究が行われている。しかし、日本では気象庁による公式気象観測データが得られる期間は過去約150年間程度に限られる。気候変動に対する社会応答や適応史を理解するためには、過去数百年間の気候変動の実態解明が不可欠である。歴史気候学では、江戸時代の日記に記録された天候記録、サクラ満開日など植物季節の記録、湖の結氷・解氷期日に関する記録など、様々な歴史記録と気象観測データをもとに、過去の気候変動について実証的研究が進められてきた。本発表では、発表者がこれまで取り組んできた日記天候記録による19世紀以降の気候復元の事例や、最近の歴史気候学の研究動向について紹介する。



第2回

日時: **7月2日(木)** 16:30~18:00

場所: 駒沢キャンパス3号館2階211教場

報告者: 谷本 涼 先生(地理学科 講師)

タイトル: 「現代日本における客観的／
認知的アクセシビリティ研究の道のり」



地理学や隣接分野においてよく用いられるアクセシビリティの概念やその分析の手法・事例は、客観的アクセシビリティと認知的(主観的)アクセシビリティの2つのアプローチに大別されながら発展を遂げてきた。本発表では、GISやインターネット社会調査などを用いて発表者が取り組んできた分析事例や、アクセシビリティ研究における多様な課題および分野横断的なニーズについて紹介する。



主 催: 駒沢大学文学部地理学科・大学院地理学専攻

共 催: 応用地理研究所

お問い合わせ: 西山弘泰(地理学科准教授・世話人) km2480@komazawa-u.ac.jp